

邇摩高魅力化コンソーシアム

昨日、教職員が邇摩高校コンソーシアム設立準備校内研修会を行いました。生徒の「生きる力」の育成のために、地域の子どもたちにどのように育ててほしいか、何を実現していくのかという目標やビジョンを、学校だけでなく地域住民、市町村、地元企業等と協働で策定し、地域と一体となって子どもたちを育てることが求められています。そのため多様な主体が参画し、魅力ある高校づくりに取り組む協働体制が必要で、この協働体制を高校魅力化コンソーシアムと呼んでいます。島根県教育委員会はこの高校魅力化コンソーシアムを全ての高校で構築するよう求めています。

コンソーシアムという協働体制の形を作ることは容易にできますが、実際にその組織が機能し、邇摩高校の魅力化と生徒の生きる力や生き抜く力の育成を支援する組織でなければなりません。今回は、具体的な事象をもとに4つのグループに分かれて討議し、コンソーシアム設立に向けて意識高めることを目標としました。

日本航空 JAL の再生に関わり、経営の神様といわれている稲盛和夫氏は、「人生・仕事の結果＝考え方×熱意×能力」という方程式で人生と仕事を一体のものとして考えられています。この方程式の“考え方”の部分、学校だけでなく多様な価値観を持った人たちと協働で創り上げていくことで、邇摩高校の魅力化につながっていくもので、コンソーシアムの目指すところの一つだと考えています。熱意と能力は最低が0でマイナスにはならないようですが、考え方はマイナスがあり、その場合は全体の合計もマイナスになるということです。コンソーシアムの設置やその運営が、関わっている教員の仕事観や人生を豊かにし、地域に活力を与え、生徒の人生の可能性を高め、豊かにする。そんな協働体制を創り上げていくことが重要になってくるでしょう。

道の駅「ごいせ仁摩」をフィールドとした取り組みの模索



生徒確保につながるアンバサダー事業の見直し



担当者から本日の趣旨、流れの説明、邇摩高校コンソーシアムの説明がはじめに行われました。

2年生から3年生につながる総合的な探究の時間の模索



先生方がゆといを持てる労働環境の模索

